

科目名	サービス介助							年度	2026
英語科目名	Service Assistance							学期	通年
学科・学年	情報ビジネス科 2年次	必/選	選	時間数	15	単位数	1	種別※	演習
担当教員	諸星 朱里	教員の実務経験		無	実務経験の職種				

【科目の目的】

超高齢社会・障害者等多様な人が暮らす社会において、すべての人との良好なコミュニケーション関係を築き、困りごとや必要なことに対して、その人、その場に合わせた行動ができるようになる。

【科目の概要】

高齢者の立場で、さまざまな面でサポートが行えるよう学びます。

【到達目標】

- A 良好なコミュニケーションと取るための、サービス介助の知識と実技を理解する
- B 高齢者、認知症患者、聴覚障がい者、視覚障がい者、車いす利用者への理解を深めます
- C 座学の知識だけではなく”気づき”を得て、こころのバリアフリーにつなげる

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は試験を受験することができない。授業の進捗状況により、内容が前後する場合がある。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	サービス介助の知識と実技を十分理解でき、他者に指導することができる		サービス介助の知識と実技を理解できる		サービス介助の知識と実技を理解できない
到達目標 B	高齢者、障がい者への気遣いが十分でき、他者を指導することができる		高齢者、障がい者へのサポートができる		高齢者、障がい者へのサポートができない
到達目標 C	高齢者だけではなく他者への”気づき”の気持ちを十分持っていて、様々な場面で学んだ事を活かせる		他者への”気づき”の気持ちを持っている		他者への”気づき”の気持ちを持ってない
到達目標 D					
到達目標 E					

【教科書】

毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

授業への取り組み、課題等を含めて総合的に評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		サービス介助			年度	2026
英語表記		Service Assistance			学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	オリエンテーション	サービス介助士の理解	1 ガイダンスⅠ	サービス介助士を理解する	3	
			2 ガイダンスⅡ	講義の進め方を理解する		
2	基本講座	サービス介助の接遇	1 接遇	感染しない・させない接遇	3	
			2 接遇	高齢者への接し方		
			3 接遇	障がい者への接し方		
3	基本講座	社会的障壁	1 社会的障壁	サービス介助の社会的な意義	3	
4	高齢者への理解	高齢者、認知症患者への理解	1 高齢者への対応	高齢者への対応について理解する	3	
5	高齢者への理解	白内障体験	1 白内障体験	白内障の体験を行い理解を深める	3	
6	高齢者への理解	白内障体験	1 白内障体験	白内障の体験を行い理解を深める	3	
7	聴覚障がい者への理解	聴覚障がい者への理解	1 聴覚障がい者への対応	聴覚障がい者への対応について理解する	3	
8	聴覚障がい者への理解	聴覚障がい者体験	1 聴覚障がい者体験	聴覚障がいの体験を行い理解を深める	3	
9	車いす使用者への理解	車いす使用者への理解	1 車いす使用者への対応	車いす使用者への対応について理解する	3	
10	車いす使用者への理解	車いす介助・体験	1 車いす体験	車いすの体験を行い理解を深める	3	
11	車いす使用者への理解	車いす介助・体験	1 車いす体験	車いすの体験を行い理解を深める	3	
12	車いす使用者への理解	車いす介助・体験	1 車いす体験	車いすの体験を行い理解を深める	3	
13	視覚障がい者への理解	視覚障がい者への理解	1 視覚障がい者への対応	視覚障がい者への対応について理解する	3	
14	視覚障がい者への理解	視覚障がい者体験	1 視覚障がい者体験	視覚障がい者の体験を行い理解を深める	3	
15	まとめ	これまでのまとめ	1 まとめ	学んだ事を再確認する	3	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等